

米山月間によせて

米山奨学委員会 委員長

田中 真人 (大阪北RC)



本年度米山奨学委員会は“米山奨学事業のファン作り”をメインテーマに掲げ活動をいたしております。

私の米山奨学事業の関わりの始まりは5年前に自クラブにて米山奨学委員長に任命された時になります。それまでは10月の米山月間に機械的に2万円の寄付をするだけのことでした。委員長になると人前で米山事業について発表する必要性から事業について勉強することとなり、事業の理念・歴史・影響等を理解することとなりました。また委員会主催でクラブメンバーの方々に米山梅吉記念館を案内させていただくことは米山梅吉翁の足跡を知る機会に恵まれました。その後、地区主催の奨学生歓送会の場で多くのクラブのカウンセラーの方々が、1年間の限られた期間の中で奨学生と心深く結ばれているのを目の当たりにして米山事業のファンになっていきました。

私達、地区委員会としましては一人でも多くのロータリアンに米山奨学生と接していただきたいと考えております。現在全国で約14億円のロータリアンの寄付金をもって800名の奨学生をお世話しております。そして各地区の寄付金と担当奨学生の数ほぼ比例しておりますので我々第2660地区の7000万円のご寄付いただいた金額で39名の奨学生を担当しています。当地区の約半分のクラブが奨学生を受け持っているのが現状です。目標は第2660地区全クラブにそれぞれ毎年奨学生を受け持って頂き、米山事業により多く関わっていただく機会を作りたいと考えています。

その為には、ロータリアンから高い評価を頂ける奨学生を集める必要が有ります。奨学生は第2660地区エリア内に有る大学から定員の約2倍の奨学生希望者の推薦をいただき、書類・論文・面接選考を経て決定いたします。本年度7月の大学との打ち合わせ会議にて以下の点を変更しました。

- 1.前年度の合格率による推薦枠の増減。(優秀な学生を多く推薦した大学の枠を増やす)
- 2.奨学生希望推薦者の1国に於ける比率を50%以下にする。(近年1国に偏りすぎていた為)

ロータリアンから高い評価をいただける奨学生を多く集め、ロータリアン、奨学生ともにお互いが感動を覚える活動の手助けになるようにしていきたいと考えています。そうすることによって1人でも多くの米山事業のファンになっていただき寄付を増やしていきたいと思えます。寄付が増えると担当奨学生の数が増えます。大学の方にもこの相乗効果を理解して頂きより良い学生の推薦を促しています。

(財)ロータリー米山記念奨学会にはシンボルマークが有ります。重なり合うハートは「ロータリアン」と「奨学生」です。外国人留学生の支援・交流を通じて国を超えた信頼関係を築き、世界平和を願う“心”を育てるという、事業創設の願いがこめられています。手は、そうした“心”を生み出すと同時に、当事業がロータリアンの手で支えられている事を示しています。

50年以上の歴史を持ち、世界に類を見ない、RI認証の日本独自の多地区合同奉仕活動であるこの「米山記念奨学事業」を地区の皆様と共に広めたいと考える次第です。ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。